

## 【耐震診断結果の見方】

【耐震診断結果一覧表】

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇ビル	池田市〇〇1-1-1	事務所	1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	$I_s = 0.45$ $q = 1.20$	耐震改修済	令和〇年〇月	
2	△△ハイツ	池田市△△2-2-2	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} = 1.10$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.40$			

【耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価】

(平成31年 1月 1日付け 国住指第 3209号「耐震診断義務付け対象建築物の耐震診断の結果の公表について(技術的取言)」の別表2を参照)

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する <b>危険性が高い</b>	II 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する <b>危険性がある</b>	III 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する <b>危険性が低い</b>
1 一般財団法人 日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$ $1.25 < C_T \cdot S_D$
3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

※ Z、G、Uについては、備考欄に特記がない限り「1.0」とする。